

(湧心館高等学校 全日制) 学校 平成28年度学校評価表

1 学校教育目標
(1) 確かな学力を育成し、自己実現を図る態度を育む
(2) 道徳性を身に付け、豊かな情操を養う
(3) 心身の健康を自己管理する態度を養う

2 本年度の重点目標
【確かな学力・自己実現を図る態度の育成】
(1) アクティブ・ラーニングを推進し、思考力、判断力、表現力を育む。
(2) 生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、最も効果的な個別支援を行う。
(3) 望ましい勤労観・職業観を育成し、個に応じた進路指導を行う。
【道徳心と豊かな情操】
(1) 命を大切にすることを育み、自他の大切さを認める態度を養う。
(2) 規範意識を身に付け、善悪を判断し自らを律する力を培う。
(3) わが国の伝統と文化を尊重する態度とグローバルな視点を育む。
【心身の健康の自己管理】
(1) 望ましい食習慣と生活習慣を身に付けさせる。
(2) 運動に親しむ態度を育み体力を向上させる。
(3) 安全に行動し危険を予測回避する力を向上させる。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	三課程 (全定 通)運営 と学校経 営の整合 性を図る	本校のスクールイ デンティティが三課 程で共有化さ れているか。課 程間の情報交 換が継続的に 図られている か。より良く改 善が進められ ているか。	教務・進路・ 生徒指導部の 情報の共有化 と連携の強化 を図る。三課 程での研修の 充実。	三課程教頭会 を定期的に実 施する。3課程 年間研修計画 を作成する。	A	三課程教頭会の定期的 実施の他、関係のある分 掌部間でも、必要に応じて、 情報交換を行うことが できた。また、三課程 合同の研修も、内容、方 法を改善しつつ計画ど おりに進めることがで きた。
	適応指導 の充実	学年及び関係 する分掌部が 連携して具体 的な取組が進 められている か。	新入生への年 間を通じた適 応指導の充実。 1年生の 転学・転籍・ 退学者数割合 12%以内。	適応指導委員 会が実施する アンケート結 果を指標とし て、学年や各分 掌部がそれぞ れの取組を評 価、改善する仕 組みを作る。	B	1月末現在の転・退学者 数は前年同時期とほぼ 同じ数で、数値目標の達 成が難しい状況にある。 しかし、学年部の取組が アンケート等での生徒 実態の理解を踏まえて なされており、生徒たち の学校への適応感は着 実に高まりつつある。
	開かれた 学校作り	広報活動を効 果的に実施し ているか。	積極的な情報 発信に努め、 「地域に開か れた学校作り に努めている」 の評価で 90%以上を 目指す。	湧水(学年広報 誌)を毎月配布 する。体験入学 や中学校説明 会を充実する。 中学校訪問を 充実する。学校 HPを定期的 に更新する。	B	学年広報誌は、学校の様 子、生徒の状況等の紹介 で、保護者が学校に関心 を持ってもらえるよう、 工夫して作成すること ができた。学校HPの更 新頻度は大きく増え、行 事等の特別な学校の様 子だけでなく、日常的な 学校の様子も掲載でき るようになった。今後 は、体験入学や学校説明 会だけでは伝えられな

						い本校の日常をHPを通して中学生に届ける工夫が必要である。
		地域社会に貢献する態度が育っているか。	学校周辺及び地域の清掃活動を行う。	学校全体で計画的に取り組む。育友会、生徒会と連携を図る。	C	生徒会や部活動の生徒で地域のボランティアに参加した。しかし、育友会、生徒会の連携で生徒ボランティアを募るなど、学校全体の活動とはなっていない。
学力向上	アクティブ・ラーニング推進のための指導方法の工夫と改善	アクティブ・ラーニング型の授業の展開が図られているか。	アクティブ・ラーニング型の授業の展開を意識して実践する職員の割合80%以上を目指す。	校外で実施されるアクティブ・ラーニング研修への職員参加及び参加職員による復講研修を実施する。職員に授業形態のアンケートを実施して、アクティブ・ラーニング授業の現状を把握する。	B	アクティブ・ラーニング型授業の展開を実践した職員の割合は75%で目標値には届かなかった。しかし、指導教諭が実施するAL型授業の公開に参観を希望する職員も多く、また、公開授業週間における授業実践では昨年より多様なAL型授業の展開が見られるなど、着実にAL型授業が浸透しつつある。
		思考力・判断力・表現力が育まれているか。	生徒が自ら考えたり、表現したりする活動割合の向上。	公開授業・研究授業を活用して、教科の枠を越えて職員同士が互いに学ぶことのできる授業参観を促進する。	B	本年度は公開授業週間の他にも、複数の職員が日常の授業を公開し、職員に参観を呼びかけている。グループ活動や討論など生徒が考え、表現する授業を実践した職員の割合は8割、日常的にこのような授業実践に取り組む職員は4割に達した。
	豊かな心を育てる教育の推進	各教科で「命を大切にする心を育む指導」がなされているか。	授業及び学校行事等の場面で、生徒が生き生きとした活動ができる。	生徒の現状把握のため、生徒実態アンケートを行い、早期の指導に生かす。適応指導の改善に向けた会議により現状把握と改善を行う。	B	文化祭や体育大会等の学校行事を中心に、自分の役割を考え、他者と協力しながら行事に取り組む姿が見られた。今後は、グループやペアで協力して課題解決に取り組む活動を通して、他者を尊重し、他者につながる意義や良さを感じられる授業を推進する必要がある。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の推進	望ましい勤労観・職業観が育成されているか。	進路講話・職場見学・企業人との交流を通して、具体的イメージを持った職業観を形成する。	職業安定所等の外部機関が主催する事業の積極的な活用と、キャリア意識を育てる校内の取組とを有機的に連動させて実施する。	B	キャリアサポーターの協力、支援によって、具体的できめ細やかな面談、面接指導を行うことができた。ハローワーク等の外部機関を活用した就労体験や企業面談によって具体的イメージを持った職業観を持たせることもできた。しかし、一部の生徒に進路未定のまま卒業を選択する状況もあり、キャリア

						ア教育の一層の充実が求められる。
			インターンシップを通して、働くことの意味や意義を考え、望ましい勤労観を形成する。	マナー等の事前指導、事業所との事前の打合せや礼状の送付等を含め、活動の全体で大きな学びが得られるようにする。	A	本年度のインターンシップは、地震の影響で準備期間が短く、実施企業も減少し、生徒の希望と一致しないところもあったが、生徒がこの状況を理解し、自覚的に行動した結果、働くことの意味や意義を考えるよい機会となった。しかし、この貴重な経験が日常生活に反映できていない生徒もおり、キャリア育成の観点から事後指導を充実させる必要がある。
			職業レディネステストやライフプランセミナーを通して、望ましい職業観を形成する。	自己の特性を知り、業種・職種を理解や進学・就職の選択について理解を深めつつ、人生と仕事について調べさせ考えさせる。	B	職業レディネステストで職業上の適性について考え、自己理解を深めることで、職業観、勤労観の基礎をつくることのできた。まだ、自分の適性や能力を将来の職業と関連させ、伸ばしていくためのプランづくりはできていないので、進路講演会等で職業に対する理解を進め、将来設計を考える取組も必要である。
進路目標の達成	個に応じた進路指導の推進が進路目標の達成につながっているか。	進路希望調査・適性検査などを通して進路目標の早期設定を促す。	二者面談・三者面談・進路部面談等を計画的に実施するとともに、各種調査結果などを活用して生徒の自己理解に生かす。	B	各学年が、それぞれのステージに応じて面談や調査を実施した成果として、徐々に自己理解や進路意識の形成が促されている。しかし、本校生徒は具体的な進路目標の設定や目標の明確化に時間がかかる傾向があるので、学年、進路指導部が情報交換を密にし、連携して指導に当たるための進路検討会の実施などのサポート体制づくりが必要である。	
		基礎的な学力の向上を図るとともに進路情報の提供と進路別学習機会の充実に努め、進路選択の幅を広げる。	学びなおし教材（マナトレ）を1年生の授業で活用する。模試・進路のしおり・進路情報誌・進路ガイドンスなどの活用を進める。キャリア別終礼・進路検討会等を定着させる。	B	キャリア別終礼の強化、面接指導、面談の充実により、3年生の進路の早期実現につながった。学びなおし教材の活用は、中学の学習内容と高校の学習内容の接続をスムーズにし、1年生の落ち着いた学習につながっている。進路情報の提供については「進路のしおり」が上手く活用でき	

						ていない状況がある。し おりの発行から、具体的 活用までの年間計画が 必要である。
生徒 指導	基本的生 活習慣の 確立	生徒が健全に 社会に適応で きる生活をし ているか。	自主的に健全 な整容を心掛 けられるよう な指導。	学年間の指導 内容に差が生 じられないよう、 整容検査内容 のマニュアル の活用を行う。 検査結果を共 有化するため に文書セキュ アを活用して データ管理を 行う。	C	学年間で整容指導の内 容に差が生じないよう、 生徒指導主事、生徒部職 員、学年主任で週1度情 報や意見の交換をする 機会を設けた。その結 果、学年間の認識の差を 修正して整容指導に当 たることができた。まだ 1・2年生で整容を整え ることができない、遅刻 状況を改善できない生 徒がおり、社会への適応 を視点とした自己管理 能力を高めるための取 組みが必要である。
	理性的態 度と道徳 的実践力 の育成	規範意識の高 揚、友愛・連帯 の精神を養お うとしている か。	学級や委員会 活動・部活動 など集団生活 の中での責任 と人間形成の 指導。	委員会活動を 定期的実施 することで活 発化を図る。生 徒会を中心と した地域貢献 活動を検討し、 実施する。	B	保健委員会、図書委員 会、美化委員会は、その 計画的な活動で本校生 徒の健康や文化的な生 活に貢献するとともに、 協力することの大切さ や責任感を学んだ。地域 貢献活動については、生 徒会執行部生徒は意欲 的に取り組むものの、学 校全体の活動としては 実施できていない。
	自他を尊 重し、互 いに協力 する態度 や遵法精 神の育成	生徒同士が互 いを尊重し、協 調しながら生 活することが できているか。	非行事例の減 少といじめ件 数0を目指 す。	SNSを中心 に、情報モラ ル、情報マナー についての指 導を継続的に 行う。早期にい じめを認知で きるよう機会 あるごとに声 かけ指導を行 う。	B	問題行動の発生件数(人 数)は15件(22人) で、昨年と比較して件数 で12%、人数で35% 減少している。一方、い じめの認知件数につい ては0とはなっておら ず、SNS等のネットを 介したいじめについて、 予防のための対策を一 層進める必要がある。
	交通安全 意識の確 立、交通 法規の理 解と交通 マナーの 向上	交通事故・違反 が減少したか。 無施錠自転車 が減少したか。	事故違反件数 を減少させ、 安全運転意識 の向上を図 る。二重ロッ ク100%。	交通安全教育 の自校実施と 交通委員会の 活動の充実を 図る。二重ロッ ク及び無許可 自転車指導を 徹底する。	B	交通事故件数は7件で、 昨年と比較して42% 減少している。一方、無 施錠自転車は減少して おらず、二重ロック10 0%の目標は達成でき ていない。定期的な点検 に基づいた指導で确实 に整備につなげる仕組 みが必要である。
人権教 育の推 進	研修の充 実と職員 の人権意 識の高揚	教育の根幹に 人権尊重を捉 え、すべての教 育活動におい て人権教育の 推進ができて いるか。	教職員が人権 尊重の理念を 理解し、全て の教育活動に おいて推進で きる研修や体 制づくり。	計画的な研修 による学習を 通して、人権意 識の高揚を図 り、人権課題に ついての認識 を深めるとと	B	研修の計画的な実施と 参加体験型研修での活 発な意見交流を通して、 職員の人権意識の高揚、 教育実践の交流を図る ことができた。今後は、 これまでの成果を土台

				もに実践的な指導力を育む。		にして、より実践力を高めることのできる研修等の取組が必要である。
	人権の重要課題の学習	人権課題を自分の問題として考える学習になっているか。	これまでの積み上げに留意しつつ改訂をすすめる、直近の話題を盛り込んだものにする。	係（推進委員、学年の係）を中心に、当該学年の全職員が共有しうる指導案を作成する。	B	人権教育LHRは、その目的、内容、方法について事前に検討し、計画的に取り組むことができた。また、生徒同士による意見交流を中心に展開し、生徒が人権問題を自分の問題として考える授業を展開することができた。
	命を大切にすることを育む指導	人権尊重の精神に立った学校づくりが推進されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権が尊重される授業づくりの推進 ・人権が尊重される人間関係づくりの推進。 ・人権が尊重される環境づくりの推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が多様な学びの中で、自他の特性を自覚し、主体的に学習に取り組める授業の工夫・改善を行う。 ・共感的人間関係を育成する支援の推進。 ・人権尊重の雰囲気が醸成される環境づくりの推進。 	B	生徒一人一人を尊重した授業を展開するために、授業のUD化やアクティブ・ラーニングの視点を取り入れて授業改善を図った。人権尊重の雰囲気づくりとして、掲示板や図書館に「人権コーナー」を設置し、生徒の人権作品や資料を展示した。今後は、生徒が日頃から人権学習に親しむ機会を提供していくことが必要である。
いじめの防止等	いじめ防止対策委員会を核とした職員間の連携	学級・学年・各部署・各段階における連携が成されているか。	いじめ防止対策委員会での連携を密にし、情報の共有を行い未然防止を図る。	いじめ問題への対応マニュアルの職員への周知を図り、全職員で共通理解と防止に取り組む。	B	いじめ防止対策委員会において、いじめ事案について情報を共有、対応について検討することで職員の組織的連携が図られている。また、生徒の状況について関係職員で情報を共有する仕組みもあり、いじめの早期発見につながっている。
教育課程	単位制の特徴を生かした教育課程の検討	生徒目標達成のためのカリキュラム編成を十分支援できているか。	生徒一人一人の特性や進路目標を踏まえながら、前向きな進路実現へ向けたカリキュラム作成を促進する。	具体的なカリキュラム編成例を記したcompassを活用したカリキュラムガイダンス（説明会）の実施及び個人面談による相談を充実する。	B	カリキュラムについては、キャリア教育と関連させながら、生徒が自分の将来と結びつけて考え、編成できるよう支援できた。また、科目選択の履修表の見直しも行い、特定の教科への偏りの少ないバランスの取れたカリキュラムが編成できるようにした。
		社会の変化、進路の多様化等に対応するカリキュラムを広く検討できたか。	大学入試、教育課程等の教育改革に対応するカリキュラムの基本的な枠組みを作成する。	日々変化する教育改革の動向と生徒の実態を踏まえて、カリキュラムの検討を、各教科と協議、検討を行う。	B	3年次に選択する総合的な学習の時間（湧き力B）の一つとして、防災を視点とした地域コミュニティや街づくりについて学ぶ領域の開設について検討した。今後、平成31年度開設を目標に、熊本の防災について教科横断的な内容

						で構成できるよう検討を続ける。
心身の健康	望ましい食習慣と生活習慣の定着化を図る	自分の食習慣や生活習慣に関心を持ち、行動できているか	自分の食習慣や生活習慣を見直し、積極的に改善する力をつける。	生徒の実態把握を実施し、自分の生活習慣を見直す機会を作るとともに、生徒が主体的に関わる行事を計画する。	B	生徒の食習慣への関心を高めるために、育友会の協力を得て実施した「放課後キッチン」では、実施するたびに参加希望が増え、家庭で調理をする生徒も増加するなど、所期の目的を達成できた。生活習慣の改善については、生活実態の情報を担任に提供する等、学校全体で取り組める内容を検討、実施する必要がある。

4 学校関係者評価
<p>(1) 進路面談等を計画的に実施したことが、今年度の進学・就職の実績につながったと評価できる、今後もさらに充実してやってもらいたい。</p> <p>(2) アクティブ・ラーニングの推進については、見学したいくつかの授業の様子から職員の指導力の高まりを感じる。</p> <p>(3) 基本的な生活習慣の確立の評価が「C」となっているが、親の役割の大切さを痛感する。親に学校のことをもっと知ってもらい、親としての役割を十分に担ってもらえるような手立てが必要である。</p>

5 総合評価
<p>(1) 設定目標の達成には至らない項目があるが、全般的に本校の取組が着実に成果を導きだしているとは評価できる。</p> <p>(2) アクティブ・ラーニングの推進については、適応指導の充実と関連させた取組によって、昨年以上に授業実践の広がりが進んだ。</p> <p>(3) 前年度と同様に問題行動等の発生状況は落ち着いているが、遅刻や欠席等の状況から、自分で自分をコントロールする自己管理能力が育っているとは言い難い。</p> <p>(4) 3年間を見通したキャリア教育の充実が、各学年の学年経営と上手くつながり、本年度の進路実績や2年生のインターンシップの状況等に成果をもたらした。</p> <p>(5) 広報活動については、HPを頻繁に更新して充実を図り、本校の様子を地域や家庭に発信した。しかし、地域や保護者からの反響は少なく、本校の広報が広く地域に認知されているとは言えない状況である。</p>

6 次年度への課題・改善方策
<p>(1) 学校評価アンケートへの回答において、生徒の肯定的な回答の割合が70%以上となることを目指す。また、学校評価アンケートの結果で保護者と教師のアンケートで差が小さくなったので、次年度さらにこの差が埋められるように、育友会と連携した取り組みを行う。</p> <p>(2) アクティブ・ラーニングの一層の推進を図るために、本年度の取組である公開授業週間の活性化や外部講師の招聘、校外研修への積極的な参加を継続して実施する。</p> <p>(3) 生徒の基本的な生活習慣の確立が困難な状況に対し、生徒の自己管理能力を高めることを教育目標として掲げ、全ての分掌部で目標を共有し、学校全体の課題として協力して取り組む。</p> <p>(4) 学年ごとに段階的に進めるキャリア教育が定着しつつある状況に対し、加えて夢を育て広げる取り組みを実施する。</p> <p>(5) 地域や保護者が本校の教育活動にあまり関心を持ってない状況に対して、保護者、地域と連携したボランティア活動、地域を舞台とした教育活動の展開を進める。</p>